

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	桜花学園大学
設置者名	学校法人 桜花学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
保育学部	保育学科	夜・通信	2		25	27	13	
	国際教養こども学科	夜・通信			14	16	13	
学芸学部	英語学科	夜・通信			16	18	13	
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/syllabus/hoiku/2022/jitumu-list.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	桜花学園大学
設置者名	学校法人 桜花学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/yakuinmeibo.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前桜花学園高校校長	2021. 12. 3 ～ 2025. 12. 2	教学（高校）
非常勤	前桜花学園大学学長	2021. 4. 1 ～ 2025. 3. 31	教学（大学）
非常勤	元法人本部総務部長	2021. 12. 3 ～ 2025. 12. 2	総務・人事
非常勤	前法人本部総務部長・元 高校事務長	2021. 12. 3 ～ 2025. 12. 2	人事・財務
非常勤	ATグループ代表取締役社 長	2021. 12. 3 ～ 2025. 12. 2	経営・財務
非常勤	近藤堯夫法律事務所 弁護士	2021. 12. 3 ～ 2025. 12. 2	コンプライアンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	桜花学園大学
設置者名	学校法人桜花学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画(シラバス)の作成過程 <p>2018年度末よりFD活動の一環として、非常勤講師打合せ会にシラバス作成要領についての説明会を実施している。シラバスの内容・作成要領については教務委員会で検討し、決定した内容に基づき作成依頼を行うこととしている。</p> ・授業計画の作成・公表時期 <p>シラバスの作成については、毎年12月中旬に開講科目すべてを対象として、担当者宛てに作成依頼を送付し、担当者は、1月中旬までにWebでの登録を完了し、学科長・教務委員のチェックを経て、新年度の履修登録前までにHP上で公開している。</p> 	
授業計画書の公表方法	<p>https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/syllabus/hoiku/syllabus.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>すべての授業科目において毎回の出席確認を実施し、あらかじめ授業計画（シラバス）に記載している評価方法に基づき厳格に学修成果を評価し、単位を与えている。</p> <p>また、評価の基準についても履修規程に明記している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ GPA等の客観的な指標の具体的な内容 履修科目ごとの成績評価をAA（秀）、A（優）、B（良）、C（可）、F（不可）の5段階評価に対して、4、3、2、1、0のグレードポイント（GP）を付与し、個々の履修科目のGPにそれぞれの単位数をかけ、その合計値を履修登録科目の総単位数で割った平均値をGPAとする。 ・ 客観的な指標の適切な実施状況 あらかじめ設定した算出方法により算出したGPAを、前期・後期の年2回の試験終了後の成績発表時に個別に通知している。 	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/syllabus/hoiku/2022/160002.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

<桜花学園大学ディプロマポリシー>

桜花学園大学は、建学の精神に基づき「信念ある女性」を育成することを基本目的とし、幅広い知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をかねそなえた優れた人材を育成し、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを社会的使命とする。

各学部の教育目的・教育目標に沿って設定された教育課程を履修し、厳格な成績評価を経て、幅広く専門的知識と教養を修得することにより、現代の多様な課題を発見、分析、解決し、社会に貢献できる能力を身につけたと認められる者に対して学士の学位を授与する。

<保育学部保育学科ディプロマポリシー>

保育学科は、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という保育学部の教育理念のもとで、学則に定める所定の単位を修得し、以下の力を身につけた学生に、学士（保育学）の学位を授与する。

1. 自主的、主体的に学び活動する力(高い学習意欲、永続的な自己開発意欲の育成)を身につけている。
2. 他者と交流・協力し、学び合う力(豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼されうる社会的モラル)を身につけている。
3. 課題を発見・理解し解決しうる力(豊かな教養、専門的な知識・技術、思考力、判断力、表現力)を身につけている。

<保育学部国際教養こども学科ディプロマポリシー>

国際教養こども学科は、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という保育学部の教育理念のもとで、学則に定める所定の単位を修得し、以下の力を身につけた学生に、学士（保育学）の学位を授与する。

1. 共通教育科目・専門教育科目の学修を通して、教育・保育に関する専門的知識・技能を修得し、国際社会で活躍するために必要な幅広い視野と知識と教養を身につけている。
2. 日本と海外の保育を学修して2ヵ国の保育士資格取得を目指すとともに、各国の保育の比較を通して自らのより望ましい保育のあり方について考察する力を身につけている。
3. 国内外での実習と卒業研究に取り組むことで、課題を見出し解決する力と論理的思考力を身につけている。
4. 多文化共生社会に生きる子どもと保護者の支援を行うのに必要な異文化受容能力を身につけている。
5. グローバル時代に対応できる日本語及び英語を中心とする外国語による高いコミュニケーション能力を身につけている。

<学芸学部英語学科ディプロマポリシー>

英語学科は「幅広い教養と論理的・創造的な思考力」および「グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力」を持った人材を育成することを目的とする。この教育目的に基づく教育課程を履修し、卒業に必要な単位を

<p>修得し、以下の力を身につけた学生に、学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力を身につけている。 2. グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力を身につけている。 3. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力を身につけている。 4. 修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力を身につけている。 <p>・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 本学では各開講科目について、授業計画（シラバス）作成にあたり、ディプロマポリシーとの関連性を記載することとしており、そのポリシーのもとに実施される授業に対して、あらかじめ設定された評価方法・基準に沿って厳格に評価された成績評価を基に単位を修得させ、卒業を認定している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/h-d-policy.html https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/k-d-policy.html https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/g-d-policy.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	桜花学園大学
設置者名	学校法人桜花学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/jigyo2021-1.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/jigyo2021-1.pdf
財産目録	https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/zaisani2021.pdf
事業報告書	https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/jigyo2021.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/kansa2021.pdf

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：事業計画書	対象年度：令和4年度）
公表方法： https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/keikaku2022.pdf	
中長期計画（名称：中長期計画	対象年度：2022～2026年度）
公表方法： https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/chuki2022.pdf	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/hyouka.html>

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/hyouka.html>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 保育学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/syllabus/hoiku/2022/164002.pdf) (概要) 桜花学園大学（以下「本学」という。）は、教育基本法、学校教育法及び建学の精神に基づき、学校法人桜花学園の設置目的である信念ある女性を育成することを基本目的として、広く知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をお互に兼ねそなえた優れた人材を育成するとともに、保育学部にあつては教育学・保育学にかかわる学芸、学芸学部にあつては 人文・社会科学の諸分野にかかわる学芸を教授研究し、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを目的としている。 本学の設置する各学科における人材の養成に関する目的、その他の教育研究の目的は次の各号に定めるとおりとする。 (1) 保育学部保育学科は、豊かな教養と社会人としての基礎的能力、専門職としての豊かな専門的知識・技能、自己開発能力を有し、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる高度の専門性を具えた有為な教育保育専門職の養成を目的とする。 (2) 保育学部国際教養こども学科は、社会のグローバル化に対応した豊かな教養と基礎的能力を有し、グローバルな視点に立って幼児期の教育保育を担い、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる高度の専門性を具えた有為な教育保育専門職の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/h-d-policy.html https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/k-d-policy.html)
<桜花学園大学ディプロマポリシー> 桜花学園大学は、建学の精神に基づき「信念ある女性」を育成することを基本目的とし、幅広い知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をお互に兼ねそなえた優れた人材を育成し、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを社会的使命とする。 各学部の教育目的・教育目標に沿って設定された教育課程を履修し、厳格な成績評価を経て、幅広く専門的知識と教養を修得することにより、現代の多様な課題を発見、分析、解決し、社会に貢献できる能力を身につけたと認められる者に対して学士の学位を授与する。
<保育学部保育学科ディプロマポリシー> 保育学科は、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という保育学部の教育理念のもとで、学則に定める所定の単位を修得し、以下の力を身につけた学生に、学士（保育学）の学位を授与する。 1. 自主的、主体的に学び活動する力(高い学習意欲、永続的な自己開発意欲の育成)を身につけている。 2. 他者と交流・協力し、学び合う力(豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼されうる社会的モラル)を身につ

けている。

3. 課題を発見・理解し解決しうる力(豊かな教養、専門的な知識・技術、思考力、判断力、表現力)を身につけている。

<保育学部国際教養こども学科ディプロマポリシー>

国際教養こども学科は、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という保育学部の教育理念のもとで、学則に定める所定の単位を修得し、以下の力を身につけた学生に、学士(保育学)の学位を授与する。

1. 共通教育科目・専門教育科目の学修を通して、教育・保育に関する専門的知識・技能を修得し、国際社会で活躍するために必要な幅広い視野と知識と教養を身につけている。
2. 日本と海外の保育を学修して2ヵ国の保育士資格取得を目指すとともに、各国の保育の比較を通して自らのより望ましい保育のあり方について考察する力を身につけている。
3. 国内外での実習と卒業研究に取り組むことで、課題を見出し解決する力と論理的思考力を身につけている。
4. 多文化共生社会に生きる子どもと保護者の支援を行うのに必要な異文化受容能力を身につけている。
5. グローバル時代に対応できる日本語及び英語を中心とする外国語による高いコミュニケーション能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/o-k-policy.html>
<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/h-k-policy.html>
<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/k-k-policy.html>)

<桜花学園大学カリキュラムポリシー>

桜花学園大学は、各学部・学科が定める教育目的・教育目標に基づき、学生に幅広い教養的知識を提供する「共通教育科目」と各学部学科において求められる専門的知識・技能を修得するための「専門教育科目」の2本の柱でカリキュラムを編成する。

「共通教育科目」は、幅広い視野を育成し、多面的・論理的な思考力とグローバルなコミュニケーション能力を養い、総合的な人間力を身につけることを目的とする。各学部の「専門教育科目」は、専門的な知識と技能を身につけ、社会の変化に対応し、現代の多様な課題を解決し、社会に貢献できる能力の育成を目的とする。免許・資格については、段階的・体系的に学修できるようカリキュラムを編成する。

<保育学部保育学科カリキュラムポリシー>

保育学部保育学科の教育課程は、教育・保育の課題を乳幼児期から児童期の子どもの発達理解と発達環境の諸側面の課題をふまえ、総合的・構造的に、理論と実践を結びつけて探求できるように編成するとともに、保育士資格、幼稚園教諭一種免許、小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭一種免許の取得に必要な科目を希望するすべての学生が履修できるように編成する。

1. ゼミ・実習

保育学部保育学科は、1年から4年までゼミと実習を系統的に配置している。ゼミ（1年：基礎演習、2年：総合演習Ⅰ、3年：総合演習Ⅱ、4年：卒業研究）は、大学における学修及びの保育学部における教育への参加学生の基盤であり、個別指導のチュートリアルシステムである。実習は、取得を希望する免許・資格に対応して、幼稚園、保育所、児童福祉施設、小学校等で段階的に実施される。

2. 教育課程

学生は、保育学科の教育課程の系統的な学修を通して、教育・保育専門職として求められる高度な専門職としての力量の基礎を総合的に培うとともに、現代社会の有能な担い手として社会に貢献しうる人材として自らを開発することが可能となっている。保育学科では幅広い教養と高い専門性を養うために以下のようなカリキュラムを編成している。講義・演習・実技科目においては、アクティブ・ラーニングの手法を用いた双方向型の授業や、ICTを利活用した授業等を展開する。

(1) 幅広い教養と豊かな人間性を涵養する。

「教養科目（桜花学）」と「基礎科目」からなる「共通教育科目」を設置

し、幅広い教養と各領域の基礎知識を身につける。

(2) 教育・保育に関する専門的な知識・技能を身につける。

「教育・保育の本質・目的に関する科目」「教育・保育の対象理解に関する科目」「教育・保育の内容・方法に関する科目」「特別支援教育に関する科目」「体験学習科目」「総合的な学修・研究科目」を設置し、教育・保育の分野に関する保育者・教師に必要な知識とスキルを理論・実践の両側面から身につける。

【学修成果の評価】

学修成果は、試験等を科しそれぞれの科目において身についた「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」を測定する。評価における客観的評価指標として、ルーブリック等を用いる。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/o-a-policy.html>
<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/h-a-policy.html>
<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/k-a-policy.html>)

<桜花学園大学アドミッションポリシー>

桜花学園大学は、建学の精神に基づき「信念ある女性」を育成することを基本目的とし、幅広い知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性がかねそなえた優れた人材を育成し、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを社会的使命とする。桜花学園大学は、入学者に対し本学の建学の精神および教育理念を理解し、次の資質・能力を備えていることを求める。

- ・本学での学修に必要な基礎学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）を持つ学生

- ・主体的に学ぼうとする高い意欲を持ち、専門知識を身につける努力を惜しまない学生
- ・豊かなコミュニケーション能力を身につけ、生かすことができる学生

<保育学部保育学科アドミッションポリシー>

保育学科は、教育・保育学に関する体系的な学修を通して、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる高度の専門性を具えた有為な職業人を養成する。そのために以下の能力や資質を具えている者の選抜を行う。

【求める学生像】

保育学科は、参加意識が高く、共同して学部教育を創造しうる次のような学生を求める。

- ・教育・保育専門職をめざすものとして、高度の専門性（専門的な知識や技術）を自らのものとして修得しうる能力の高い学生
- ・教育・保育専門職をめざすものとして、求められる「不断の研究」に対応し、継続的な学修意欲と自己開発の意欲に富んだ学生
- ・教育・保育専門職をめざすものとして、豊かな適性と明確な目的意識を有する学生
- ・教育・保育専門職をめざすものとして、多様な価値観の人々と協働しながら、個々の子どもの成長発達の支援を希望する学生

【入学者選抜の方法】

- ・総合型選抜
- ・学校推薦型選抜
- ・一般選抜

【入学者に求める学力】

- ・高等学校で学んだ国語・外国語（英語）、その他の科目における基礎知識が身についている。
- ・ICT（情報コミュニケーション技術）の基礎が身についている。
- ・学校生活や地域での活動を通じて思考力・判断力・表現力が身についている。
- ・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度が身についている。

(3年次編入学試験の方針)

編入学試験において求める学生像は「保育学科の求める学生像」と共通であり、能力、意欲、適性、目的意識のある学生を入学させる。

<保育学部国際教養こども学科アドミッションポリシー>

国際教養こども学科は、教育・保育学に関する体系的な学修を通して、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる高度の専門性を具えた有為な職業人を養成する。そのために以下の能力や資質を具えている者の選抜を行う。

【求める学生像】

国際教養こども科は、参加意識が高く、共同して学部教育を創造しうる次のような学生を求める。

- ・教育・保育専門職をめざすものとして、高度の専門性（専門的な知識や技術）を自らのものとして修得しうる能力の高い学生
- ・教育・保育専門職をめざすものとして、求められる「不断の研究」に対応し、継続的な学修意欲と自己開発の意欲に富んだ学生
- ・教育・保育専門職をめざすものとして、豊かな適性と明確な目的意識を有する学生
- ・教育・保育専門職をめざすものとして、異文化コミュニケーション能力を有し、文化的背景が異なる人々と協働しながら、国内外においてその地域社会の発展に貢献することを希望する学生

【入学者選抜の方法】

- ・総合型選抜
- ・学校推薦型選抜
- ・一般選抜

【入学者に求める学力】

- ・高等学校で学んだ国語・外国語（英語）、その他の科目における基礎知識が身についている。
- ・ICT（情報コミュニケーション技術）の基礎が身についている。
- ・学校生活や地域での活動を通じて思考力・判断力・表現力が身についている。
- ・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度が身についている。

（3年次編入学試験の方針）

編入学試験において求める学生像は「国際教養こども学科の求める学生像」と共通であり、能力、意欲、適性、目的意識のある学生を入学させる。

学部等名 学芸学部

教育研究上の目的

（公表方法：<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/syllabus/gakugei/2022/164002.pdf>）

（概要）

桜花学園大学（以下「本学」という。）は、教育基本法、学校教育法及び建学の精神に基づき、学校法人桜花学園の設置目的である信念ある女性を育成することを基本目的として、広く知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をかねそなえた優れた人材を育成するとともに、保育学部にあつては教育学・保育学にかかわる学芸、学芸学部にあつては 人文・社会科学の諸分野にかかわる学芸を教授研究し、深く真理を探究して新たな知見を 創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを目的とする。

学芸学部英語学科は、幅広い教養と論理的・創造的な思考力及びグローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力を有し、社会の各分野で貢献しうる有為な人材の養成を目的とする。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/g-d-policy.html>）

<桜花学園大学ディプロマポリシー>

桜花学園大学は、建学の精神に基づき「信念ある女性」を育成することを基本目的とし、幅広い知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性がかねそなえた優れた人材を育成し、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを社会的使命とする。

各学部の教育目的・教育目標に沿って設定された教育課程を履修し、厳格な成績評価を経て、幅広く専門的知識と教養を修得することにより、現代の多様な課題を発見、分析、解決し、社会に貢献できる能力を身につけたと認められる者に対して学士の学位を授与する。

<学芸学部英語学科ディプロマポリシー>

英語学科は「幅広い教養と論理的・創造的な思考力」および「グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力」を持った人材を育成することを目的とする。この教育目的に基づく教育課程を履修し、卒業に必要な単位を修得し、以下の力を身につけた学生に、学士の学位を授与する。

1. グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力を身につけている。
2. グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力を身につけている。
3. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力を身につけている。
4. 修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyyouhou/g-k-policy.html>)

<桜花学園大学カリキュラムポリシー>

桜花学園大学は、各学部・学科が定める教育目的・教育目標に基づき、学生に幅広い教養的知識を提供する「共通教育科目」と各学部学科において求められる専門的知識・技能を修得するための「専門教育科目」の2本の柱でカリキュラムを編成する。

「共通教育科目」は、幅広い視野を育成し、多面的・論理的な思考力とグローバルなコミュニケーション能力を養い、総合的な人間力を身につけることを目的とする。各学部の「専門教育科目」は、専門的な知識と技能を身につけ、社会の変化に対応し、現代の多様な課題を解決し、社会に貢献できる能力の育成を目的とする。

免許・資格については、段階的・体系的に学修できるようカリキュラムを編成する。

<学芸学部英語学科カリキュラムポリシー>

学部英語学科は「幅広い教養と論理的・創造的な思考力」および「グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力」を持った教養人を養成するため、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成する。

1. 学芸学部は保育学部との【共通教育科目】として、本学の建学の精神を具現化した「教養科目（桜花学）」と、「汎用的能力」「社会人基礎力」の育成を目指す科目「基礎科目」、及び特定の領域に関する学びの幅を広げる科目「エクステンション科目」を設置している。
2. 専門的な知識や方法論を体系的に学ぶために、以下の【専門教育科目】を設置している。
 - 1) 英語ベーシック（スキル）の科目
 - 2) 英語コースの科目
 - 3) 教育コースの科目

- 4) 観光コースの科目
- 5) 三コース共通の科目
- 6) セミナーおよび卒業論文

3. 批判的・論理的思考力や課題探求力やコミュニケーション能力を育成するために研究や討論を実践的に積み上げる参加型の授業を実施する。

【学修成果の評価】

- 1) グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力
TOEIC 及び CASEC の得点とその伸びで評価する。
- 2) 幅広い教養と論理的・創造的な思考力
毎学期ごとの学修ポートフォリオの発表内容と GPA 及び「卒業研究」の成績で評価する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/g-a-policy.html>)

<桜花学園大学アドミッションポリシー>

桜花学園大学は、建学の精神に基づき「信念ある女性」を育成することを基本目的とし、幅広い知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をお互いに兼ねた優れた人材を育成し、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを社会的使命とする。桜花学園大学は、入学者に対し本学の建学の精神および教育理念を理解し、次の資質・能力を備えていることを求める。

- ・本学での学修に必要な基礎学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）を持つ

学生

- ・主体的に学ぼうとする高い意欲を持ち、専門知識を身につける努力を惜しまない

学生

- ・豊かなコミュニケーション能力を身につけ、生かすことができる学生

<学芸学部英語学科アドミッションポリシー>

学芸学部は、信念ある女性を育成することを基本目的とし、広い知識、高い教養と専門的能力、豊かな人間性を兼ね備えた優れた人材を育成することを教育目標とする。

英語学科は「幅広い教養と論理的・創造的な思考力」および「グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力」を持った人材を育成する。

【求める学生像】

英語学科は、次のような学生を求める。

- ・異なる世界の人々をお互いの文化理解によって結びつけたいと思っている学生
- ・より広い視野や世界観を身につけたいと思っている学生
- ・ビジネスや観光で生かすことのできる、世界に通じる英語コミュニケーション能力を身につけたいと思っている学生
- ・英語教育の世界で活躍したいと思っている学生

【入学者選抜の方法】

- ・ 総合型選抜
- ・ 学校推薦型選抜
- ・ 一般選抜

【入学者に求める学力】

- ・ 高等学校で学んだ国語・外国語（英語）、その他の科目における基礎知識が身に付いている。
- ・ 高等学校で学んだ英語の基礎知識、及び英語の4技能の基礎が身に付いている
- ・ ICT（情報コミュニケーション技術）の基礎が身に付いている。
- ・ 学校生活や地域での活動を通じて思考力・判断力・表現力が身に付いている。
- ・ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度が身に付いている。

（3年次編入学試験の方針）

編入学試験において、求める学生像は（求める学生像）と共通であり、能力・意欲・適性・目的意識のある学生を入学させる。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/major/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
保育学部	—	17人	10人	0人	2人	2人	31人
学芸学部	—	8人	3人	0人	0人	0人	11人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
1人			90人				91人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/jyouhou.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
保育学部	175人	167人	95.4%	710人	682人	96.1%	5人	0人
学芸学部	50人	17人	34.0%	210人	136人	64.8%	5人	1人
合計	225人	184人	81.8%	920人	818人	88.9%	10人	1人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
保育学部	194人 (100%)	1人 (0.5%)	188人 (96.9%)	5人 (2.6%)
学芸学部	39人 (100%)	1人 (2.6%)	37人 (94.8%)	1人 (2.6%)
合計	233人 (100%)	2人 (0.9%)	225人 (96.6%)	6人 (2.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 各市町村公務員 私立幼稚園 東急コミュニティ 信用金庫 山九 日本ベアリング				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画（シラバス）の作成過程 2018年度末よりFD活動の一環として、非常勤講師打合せ会にシラバス作成要領についての説明会を実施している。シラバスの内容・作成要領については教務委員会で検討し、決定した内容に基づき作成依頼を行うこととしている。 ・授業計画の作成・公表時期 シラバスの作成については、毎年12月中旬に開講科目すべてを対象として、担当者宛てに作成依頼を送付し、担当者は、1月中旬までにWebでの登録を完了し、学科長・教務委員のチェックを経て、新年度の履修登録前までにHP上で公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
すべての授業科目において毎回の出席確認を実施し、あらかじめ授業計画（シラバス）に記載している評価方法に基づき厳格に学修成果を評価し、単位を与えている。また、評価の基準についても履修規程に明記している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
保育学部	保育学科	124 単位	有・無	単位
	国際教養子ども学科	124 単位	有・無	単位
学芸学部	英語学科	124 単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/sisetu.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
保育学部	保育学科	744000 円	200000 円	432000 円	
	国際教養子ども学科	744000 円	200000 円	532000 円	
学芸学部	英語学科	744000 円	200000 円	432000 円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>保育学部は、ゼミを基盤としたチュートリアルシステムによってきめ細やかな学修支援を行っている。このような少人数支援体制により、入学から卒業までの学生に対する履修指導や学修支援体制が確保されている。履修指導は教務委員と教務課職員が連携して全体的な指導を実施しており、ゼミ教員によるチューター的支援体制と教務課職員の日常的なサポート体制が学生のニーズに対応する学修支援の両輪として機能している。</p> <p>学芸学部では1・2年次を基礎演習担当教員が、3・4年次をゼミ担当教員が学修支援を行っている。履修指導は教務委員と教務課職員が連携して全体的な指導を実施し、アカデミック・アドバイザーが学生の履修科目・履修単位数等の相談・指導を行っている。</p> <p>また他の教職員と個別学生の履修上の問題点を情報共有することで、個々の学生ニーズにあった学修支援を行っている。経済的支援においては日本学生支援機構を中心に各種奨学金の紹介や申請に係る書類手続き、面接、留学などプログラム型奨学金制度への機関申請等多くの学生が利用しやすいように対応。また、学園独自の奨学金制度もあり、学修支援を実施。入学後の家計の急変への対応、学業や運動などにおいて優れた実績のある学生への経済的支援制度の充実に努めている。さらに正課教育に組み込まれている留学に関わる費用の一部補助など修学意欲を支える支援制度を用意している。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>保育学部ではゼミ担当教員、就職委員会、学生課と連携し、本人の進路について対応している。各種ガイダンス、外部講師講演、卒業生との懇談会、保育職機関との学内合同説明会等きめ細やかな指導を展開している。また、CaCoRo（進路相談室）に専門スタッフを配置し、保育職以外の相談に対応、一般企業就職希望者にはガイダンス、学内合同企業説明会への参加を促しながら、一人一人の進路への助言を行っている。学芸学部ではゼミ担当教員と学生課が連携をし、キャリア教育、外部講師講演、マナー講座をはじめとした各種講座を用意、学生の進路に応じた指導を展開している</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>保健室を窓口、ゼミ担当教員、保健室担当者、学生相談室スタッフ、学生課と連携し、一人一人の状況に応じて対応している。学生相談室は水曜日・木曜日・金曜日に開室、学生が利用しやすい時間に予約、また学生相談室以外に CaCoRo（進路相談室）を開設、専門スタッフを配置し、学生の利用しやすい時間帯で対応している。障がい者支援についてはガイドラインに沿って特別支援の必要な学生に対し、特別支援会議を開き、本人及び保護者と連絡を図り、希望に沿った支援を行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.ohkagakuen-u.ac.jp/jyouhou/jyouhou.html>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F123310106773
学校名	桜花学園大学
設置者名	学校法人 桜花学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		49人	47人	51人
内 訳	第Ⅰ区分	30人	28人	
	第Ⅱ区分	13人	13人	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				51人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	-	-
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人	-	-
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	-	-
「警告」の区分に連続して該当	-	-	-
計	-	-	-

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）				
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	-	0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	-	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。